

DataCloset-Plus 操作マニュアル — 設定編



本マニュアルには、しおり(目次)が用意されています。

自動で表示されない場合は、PDF 画面のしおりボタンを押してください。

DataCloset-Plus は、以下の手順で設定します。

① ユーザグループの登録

② ユーザの登録

③ DB の登録

DB の名前や接続情報などを定義します。

④ テーブルの登録

物理テーブルの情報を定義します。

⑤ データ辞書の登録

データ辞書とは、メインのテーブルに対して、関連するマスタへの結合方法、マスタから取得する項目などを指定した定義体です。データ辞書を事前に定義することにより、エンドユーザは、マスタへの結合を意識することなく、マスタの項目を自由に扱うことができます。

⑥ パターンの登録

パターンとは、抽出対象の項目、条件、印刷レイアウトなどのオプションを保存したもので、メニューツリーに保存され、何度でも呼び出して実行することができます。

※本マニュアルでは、①～⑤のステップを説明します。⑥のパターンの登録に関しては、「操作マニュアルーパターン管理編」を参照ください。また、実行画面からパターンの実行のみを行う場合は、「操作マニュアルー実行編」を参照ください。

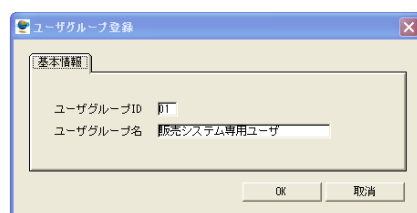
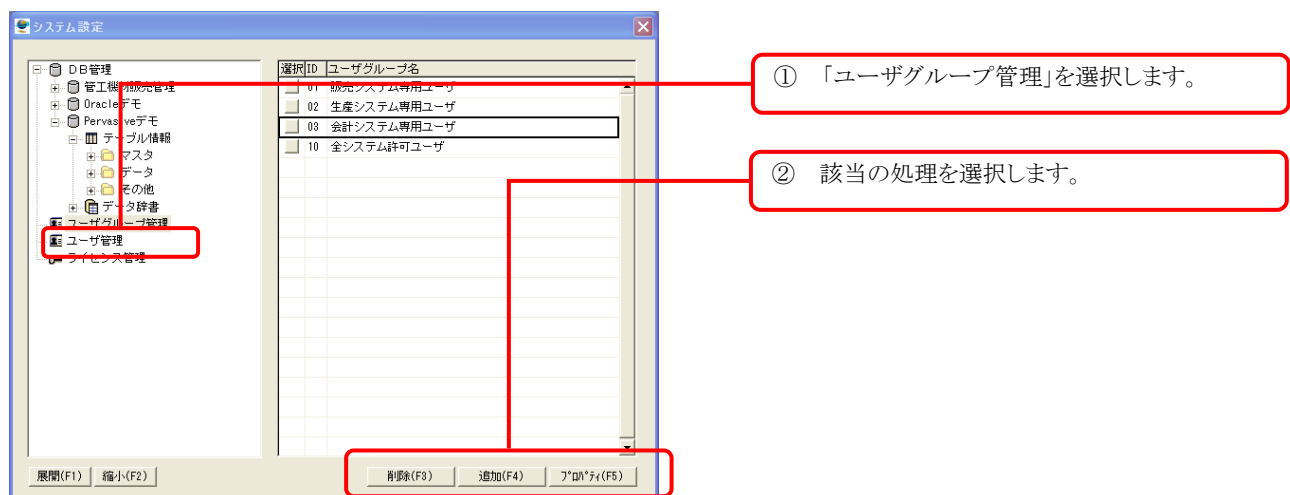
1 ユーザ情報の登録

1.1 ユーザグループを登録する

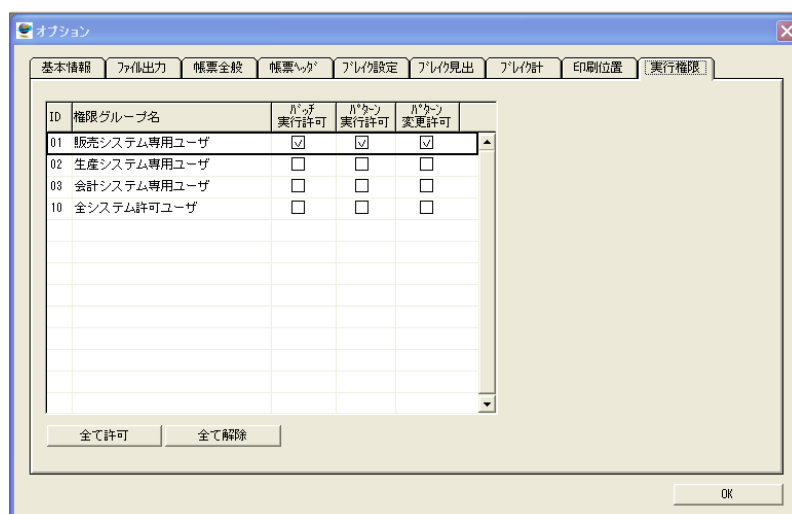
ユーザグループとは、同じ権限をもつユーザのグループのことです。ユーザグループを使って設定する権限には、以下の3つがあります。

- ・バッチ実行権限・・・外部インターフェースを使ったバッチ実行ができます。
- ・パターン実行権限・・・実行画面からパターンの実行ができます。実行画面では、抽出条件の指定ができます。
- ・パターン変更権限・・・管理画面からの実行ができます。管理画面では、項目の選択や、抽出条件の指定の他に、いろいろなオプションの指定／保存も可能です。

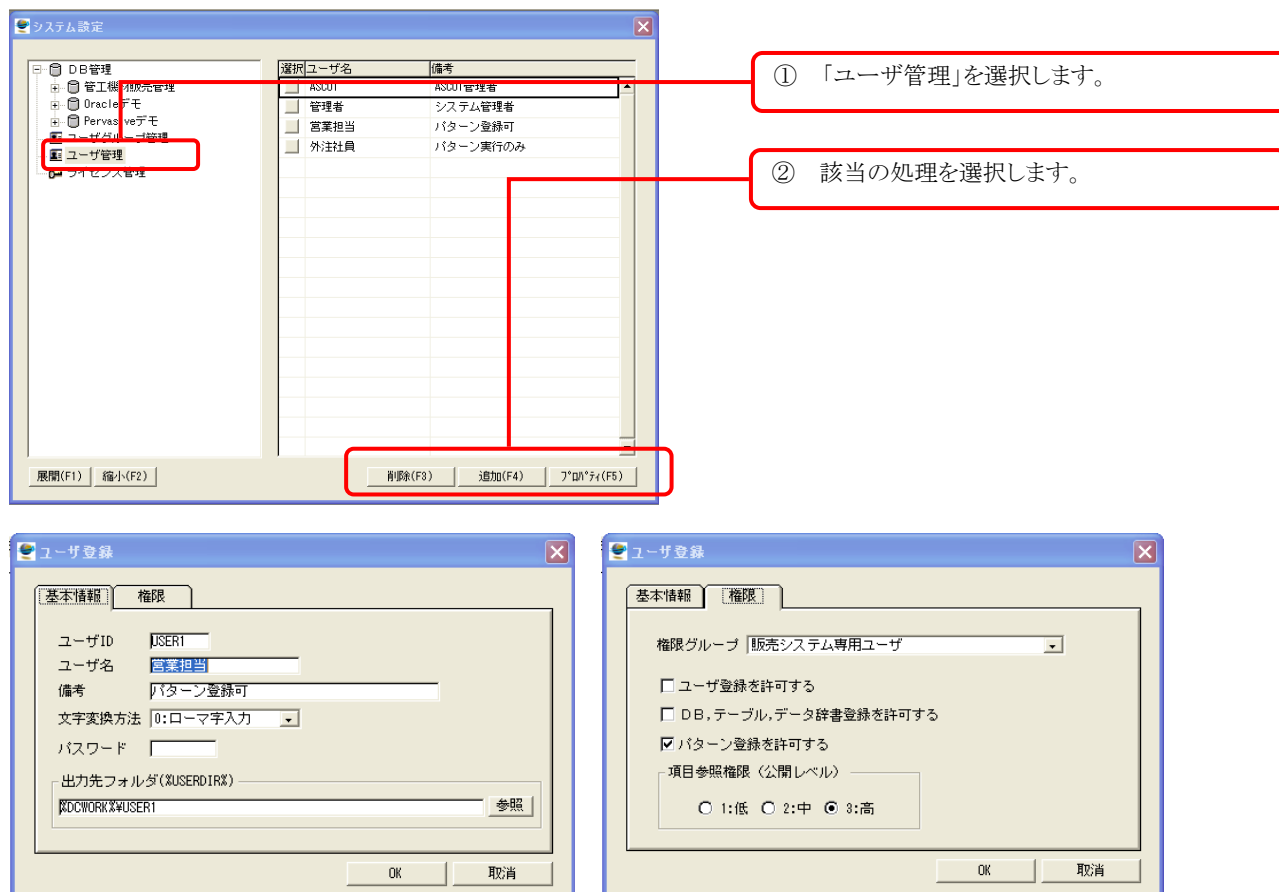
実行権限は、パターン毎に、それぞれのユーザグループに対して指定することができます。



【パターン管理画面での権限設定の例】



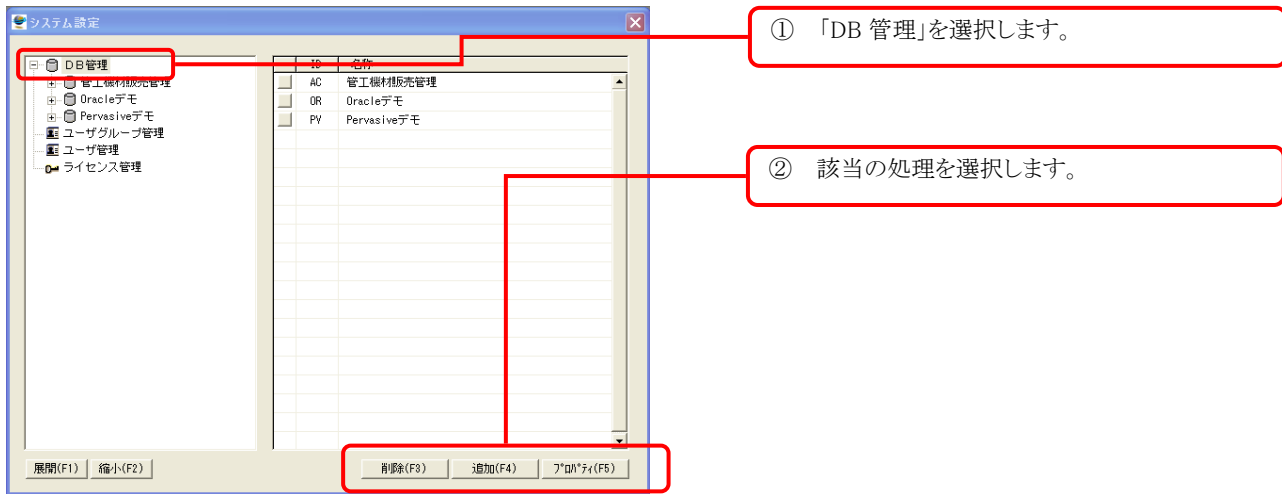
1.2 ユーザを登録する



ユーザ ID	ユーザ ID を指定します。
ユーザ名	ユーザ名を指定します。
備考	
文字変換方法	文字変換方法を選択します。
パスワード	パスワードを指定します。
出力先フォルダ	パターンの出力先指定などで使用する、「%USERDIR%」の実際の場所を定義します。指定されたフォルダが存在しない場合は、抽出時に自動で作成されます。 ※dbMAGIC/uniPaaS の論理名も使用できます。 例) %DCWORK%\\$SUPER
権限グループ	ユーザグループを登録します。
ユーザ登録を許可する	ユーザを許可します。
DB、テーブル、データ辞書登録を許可する	DB、テーブル、データ辞書の登録を許可します。
パターン登録を許可する	パターンの登録を許可します。
項目参照権限 (公開レベル)	項目を参照する際の権限レベルを指定します。 ※抽出処理を実行するユーザの項目参照権限が、テーブルの項目に指定された公開レベルよりも低い場合、その項目はマスク「****」されて出力されます。

2 データベースの定義

データベースへの接続情報を定義します。



2.1 データベースを登録する

【基本情報】

ID	データベースの ID を指定します。
名称	データベースの名称を指定します。
DBMS	データベースのタイプを選択します。
(接続情報)	
データベース名	Pervasive と SQL Server の場合に、データソース名を指定します。
ユーザ名	Oracle の場合に、ユーザ名を指定します。
パスワード	Oracle の場合に、パスワードを指定します。
接続文字列	Oracle の場合に、接続文字列を指定します。

【分類】

分類は、テーブル定義やデータ辞書を分類するのに使用します。システム設定画面のメニューツリーのサブフォルダとして表示されます。

分類 CD	1～9まで固定です。
分類名称	分類1～9のうち、使用する分だけ、名称を指定します。

【データソース】

同じデータベースで、スキーマが異なる場合や DB-LINK を利用する場合に、データソースを定義します。

データソースは、dbMAGIC/uniPaaS のテーブルリポジトリの「データベース」に対応していて、データソース別に分類の初期値を指定することもできます。

データソース名	データソース名を指定します。
説明	データソースの説明です。
スキーマ名	スキーマ名を指定します。
DB-LINK 名	DB-LINK 名を指定します。
分類初期値	分類の初期値を指定します。dbMAGIC/uniPaaS のテーブルリポジトリの「データベース」に対応していて、定義取込みの際に、該当するテーブルの分類が自動でセットされます。

3 テーブル情報の定義

① 該当データベースの「テーブル情報」と必要に応じて分類を選択します。

② 該当の処理を選択します。

3.1 テーブル情報をインポートする

dbMAGIC/uniPaaS のテーブルリポジトリの情報を取り込むことができます。

- ① リポジトリ入出力機能を使って、テーブルリポジトリを出力します。

※dbMAGIC が V9 以前の場合は、対象システムのプルダウンの「設定」－「動作環境」の「ドキュメントテンプレートファイル」に、「¥DataCloset¥env¥doc_dc.jpj」を指定し、プルダウンの「設定」－「プリンタ」の最初のプリンタ（通常は、Printer1）の行数を9999に変更してください。また、出力の際の「操作」オプションには、「D=仕様書出力」を指定してください。（詳細は「補足1 テーブル定義の出力」を参照ください。）

- ② ①で出力されたファイルを読み込みます。

① 「追加(F4)」ボタンを押します。

② 作成方法を選択し、ファイル名を指定して、OK ボタンを押します。

テーブル作成

対象のテーブルを選択してください。

選択/分類	名称	DBテーブル名	データソース
<input checked="" type="checkbox"/> マスタ	DB	M_DB	DCSYS
<input checked="" type="checkbox"/> マスタ	テーブル	M_TABLE2	DCSYS
<input checked="" type="checkbox"/> マスタ	テーブル項目	M_FIELD	DCSYS

選択件数 3

OK 取消

③ 対象のテーブルを選択し、必要に応じて分類や名称を変更後、OK ボタンを押します。

選択	対象のテーブルを選択します。
分類	分類を指定します。 ※データソースの分類初期値が設定されている場合は、その値がセットされます。データソースの登録がない場合は、「1」がセットされます。
名称	テーブルの名称を指定します。
DB テーブル名	物理テーブル名を表示します。
データソース	データソース名を表示します。dbMAGIC/uniPaaS のテーブルリポジトリの「データベース」が設定されます。

3.2 テーブル情報を編集する

システム設定メニューでテーブルを選択し、プロパティを表示すると、次のテーブル登録画面が表示されます。

テーブル登録 - 商品マスタ

No.	項目名称	DBカラム名	項目型
1	商品コード	SYO_CD	文字
2	分類コード	BUN_CD	文字
3	相手先商品コード	AITC_CD	文字
4	商品名	SYO_KANA	文字
5	商品名(英語)	SYO_MEI	文字
6	仕入先コード	SHI_CD	文字
7	取引通貨	FOR_TSNKA	文字
8	仕入単価(外貨)	SHI_TANKA_TOR	数値
9	仕入原価(円)	SHI_TANKA_YEN	数値
10	課税区分	ZEI_KB	数値
11	決定価格	KETTEI_KAKAKU	数値
12	参考価格	SANKO_KAKAKU	数値
13	登録日付	CR_DATE	日付 - 文字型
14	登録時刻	CR_TIME	時刻 - 数値型

基本情報(F1) 削除(F3) 追加(F4) 7*0/7*1(F5)

本画面では、項目名称の変更ができます。

① 該当の処理を選択します。

《基本情報(F1)》

分類	分類を選択します。
テーブル名称	テーブルの名称を指定します。
テーブル名	テーブルの物理名を指定します。
データソース	データソースを指定します。省略可能です。

《プロパティ(F5)》

【基本情報】

項目名称	項目の名称を指定します。
カラム名	項目の物理名(カラム名)を指定します。

【編集】

データ型	データの型を選択します。 ※データとしては文字か数値でも、その内容が日付を表す場合に D1、D2 を使います。D3は Oracle、SQL Server などを使う、日付と時刻が一つの項目に保存されているデータ型を指します。 ※データとしては文字か数値でも、その内容が時刻を表す場合に T1、T2 を使います。
日時の格納データ形式	データ型が日付か時刻の場合に、その格納形式を指定します。
書式	日付、時刻、数値の書式を指定します。書式の指定方法は、dbMAGIC/uniPaaS の書式に準拠します。

【固定値】

条件を固定したい場合に指定します。固定条件が指定された場合、このテーブルを使用する時は常に指定された条件が適用されます。

指定方法	固定値の指定方法を選択します。
固定値	固定値の指定方法が「4:指定文字列／数値」の場合に、その値を指定します。

【公開レベル】

公開レベル	項目の公開レベルを指定します。 ※ユーザの項目参照権限がこの公開レベルよりも低い場合、データはマスク「****」されて出力されます。ユーザの項目参照権限の指定に関しては、「1.2 ユーザを登録する」を参照ください。
-------	--

3.3 別名テーブルを利用する

テーブル情報を複写して、異なる名称で使うことができます。このテーブルを別名テーブルと呼びます。

(別名テーブルの利用例)

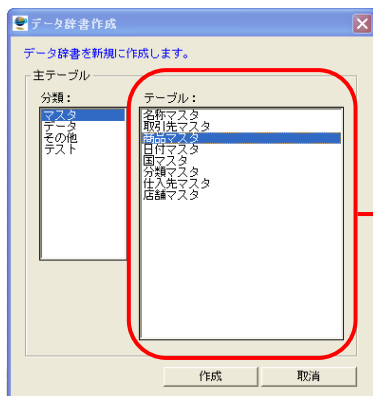
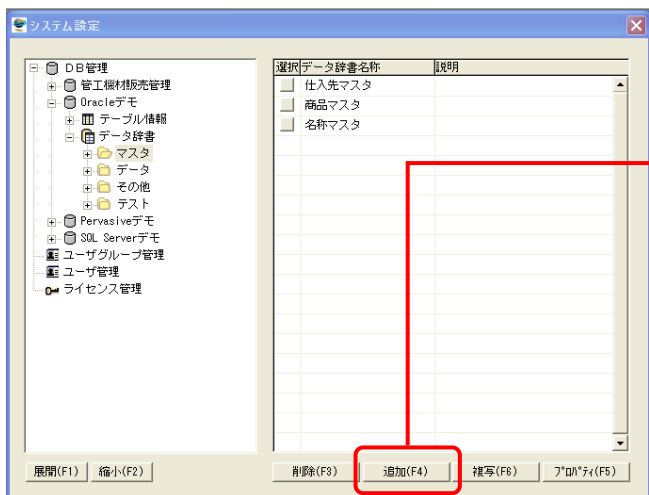
例えば、伝票区分を使って、「伝票ファイル」に売上データ(伝票区分=1)と仕入データ(伝票区分=2)を混在させたします。この「伝票ファイル」から売上データを抽出する度に、伝票区分の条件を指定するのは面倒です。

このような場合には、「伝票ファイル」のテーブル情報を複写して、「売上ファイル」を作成し、伝票区分には固定値として「1」を指定します。こうすることによって、「売上ファイル」からデータを抽出するときは、伝票ファイルの伝票区分＝「1」のものが常に抽出対象になります。同じ要領で「仕入ファイル」を作成すると、エンドユーザは、あたかも別々のファイルのように扱うことができます。

4 データ辞書の定義



4.1 データ辞書を作成する



4.2 参照テーブルを登録する

データ辞書を作成する場合には、まず参照テーブルの登録をします。(参照テーブルの追加登録はいつでも可能です。)

No.	辞書項目名称	参照テーブル名	DBテーブル名, カラム名
1	伝票番号	売上伝票	SAM_DENPYO_DEN_NO
2	行番号	売上伝票	SAM_DENPYO_DEN_GYO_NO
3	伝票日付	売上伝票	SAM_DENPYO_DEN_DATE
4	商品コード	売上伝票	SAM_DENPYO_DEN_SYO_CD
5	数量	売上伝票	SAM_DENPYO_TOTAL_QTY
6	課税区分	売上伝票	SAM_DENPYO_ZEI_KB
7	売上単価	売上伝票	SAM_DENPYO_UR1_TAN
8	売上金額	売上伝票	SAM_DENPYO_UR1_KIN_ZEINUK1
9	消費税額	売上伝票	SAM_DENPYO_ZEI
10	明細備考	売上伝票	SAM_DENPYO_MEI_BIKOU
11	売上店舗	売上伝票	SAM_DENPYO_SOUKO
12	更新日付	売上伝票	SAM_DENPYO_UP_DATE
13	更新時刻	売上伝票	SAM_DENPYO_UP_TIME
14	更新者ID	売上伝票	SAM_DENPYO_UP_USER
15	更新端末	売上伝票	SAM_DENPYO_UP_TERM

① データ辞書登録画面で、「参照テーブル (F5)」ボタンを押します。

ID	参照テーブル名称	説明	外部結合
01	売上伝票	主テーブル	<input type="checkbox"/>
02	商品マスタ	商品情報を取得する	<input type="checkbox"/>

No.	結合条件
1	売上伝票 商品コード = 商品マスタ 商品コード

② 「追加(F4)」を押して表示される一覧から結合するテーブルを選択します。※外部結合が指定されている場合は、結合に失敗した場合でも主テーブルのデータが表示されます。

③ 結合条件を指定します。
※結合条件に指定する項目は、主テーブルの項目だけではなく、既に登録されている参照項目も指定することができます。また、固定値の指定も可能です。

参照テーブルの登録が終わったら、参照テーブルから取得する項目をデータ辞書に登録します。

No.	辞書項目名称	参照テーブル名	DBテーブル名, カラム名
1	伝票番号	売上伝票	SAM_DENPYO_DEN_NO
2	行番号	売上伝票	SAM_DENPYO_DEN_GYO_NO
3	伝票日付	売上伝票	SAM_DENPYO_DEN_DATE
4	商品コード	売上伝票	SAM_DENPYO_DEN_SYO_CD
5	数量	売上伝票	SAM_DENPYO_TOTAL_QTY
6	課税区分	売上伝票	SAM_DENPYO_ZEI_KB
7	売上単価	売上伝票	SAM_DENPYO_UR1_TAN
8	売上金額	売上伝票	SAM_DENPYO_UR1_KIN_ZEINUK1
9	消費税額	売上伝票	SAM_DENPYO_ZEI
10	明細備考	売上伝票	SAM_DENPYO_MEI_BIKOU
11	売上店舗	売上伝票	SAM_DENPYO_SOUKO
12	更新日付	売上伝票	SAM_DENPYO_UP_DATE
13	更新時刻	売上伝票	SAM_DENPYO_UP_TIME
14	更新者ID	売上伝票	SAM_DENPYO_UP_USER
15	更新端末	売上伝票	SAM_DENPYO_UP_TERM

⑤ データ辞書登録画面に戻り、項目を追加したい位置にカーソルを移動して、「追加(F4)」ボタンを押します。

辞書項目

項目を選択してください。

参照テーブル:

- 売上伝票
- 商品マスタ
- 分類マスタ

項目:

- 商品コード
- 分類コード
- 相手先商品コード
- 商品名(英語)
- 仕入コード
- 取引通貨
- 仕入単価(外貨)
- 仕入原価(円)
- 課税区分
- 決定価格
- 参考価格
- 登録日付
- 登録時刻

計算式を指定 選択 取消

- ⑥ 追加する項目を選択して、「選択」ボタンを押します。
※参照テーブルに登録されているテーブルの全ての項目が選択可能です。

4.3 計算式を使用する

データ辞書の項目に、計算式(関数式)を指定することができます。

データ辞書登録 - 売上伝票

No.	辞書項目名称	参照テーブル名	DBテーブル名、カラム名
1	伝票番号	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_NO
2	行番号	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_GYO_NO
3	伝票日付	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_DATE
4	商品コード	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_SYO_CD
5	数量	売上伝票	SAM_DENPYO.TOTAL_QTY
6	課税区分	売上伝票	SAM_DENPYO.ZEI_KB
7	売上単価	売上伝票	SAM_DENPYO.URI_TAN
8	売上金額	売上伝票	SAM_DENPYO.URI_KIN_ZEINUKI
9	消費税額	売上伝票	SAM_DENPYO.ZEI
10	明細備考	売上伝票	SAM_DENPYO.MEI_BIKOU
11	売上店舗	売上伝票	SAM_DENPYO.SOUKO
12	更新日付	売上伝票	SAM_DENPYO.UP_DATE
13	更新時刻	売上伝票	SAM_DENPYO.UP_TIME
14	更新者ID	売上伝票	SAM_DENPYO.UP_USER
15	更新端末	売上伝票	SAM_DENPYO.UP_TERM

基本情報(F1) 削除(F3) 追加(F4) 参照テーブル(F5) 計算式(F6)

- ① データ辞書登録画面で、項目を追加したい場所にカーソルを移動し、「追加(F4)」ボタンを押します。

辞書項目

項目を選択してください。

参照テーブル:

- 売上伝票
- 商品マスタ
- 分類マスタ

項目:

- 伝票番号
- 行番号
- 伝票日付
- 商品コード
- 数量
- 課税区分
- 売上単価
- 売上金額
- 消費税額
- 明細備考
- 売上店舗
- 更新日付
- 更新時刻
- 更新者ID
- 更新端末

計算式を指定 選択 取消

- ② 「計算式を指定」ボタンを押します。

No.	辞書項目名称	参照テーブル名	DBテーブル名, カラム名
1	伝票番号	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_NO
2	行番号	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_GYO_NO
3	伝票日付	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_DATE
4	商品コード	売上伝票	SAM_DENPYO.DEN_SYU_CD
5	数量	売上伝票	SAM_DENPYO.TOTAL_QTY
6	課税区分	売上伝票	SAM_DENPYO.ZEI_KB
7	売上単価	売上伝票	SAM_DENPYO.URI_TAN
8	売上金額	売上伝票	SAM_DENPYO.URI_KIN_ZEINUKI
9	消費税額	売上伝票	SAM_DENPYO.ZEI
10	計算式	<計算式>	
11	BB&B(備考)	売上伝票	SAM_DENPYO.MEI_BIKOU
12	売上店舗	売上伝票	SAM_DENPYO.SOUKO
13	更新日付	売上伝票	SAM_DENPYO.UP_DATE
14	更新時刻	売上伝票	SAM_DENPYO.UP_TIME
15	更新者ID	売上伝票	SAM_DENPYO.UP_USER
16	更新端末	売上伝票	SAM_DENPYO.UP_TERM

③ <計算式>という名称の新しい行が追加されますので、名称を上書きで指定します。

④ 「計算式(F6)」ボタンを押して、計算式の指定画面を表示します。

項目No.	項目名称	参照テーブル名
1	数量	売上伝票
2	売上単価	売上伝票

計算式: %1 * %2

* 計算式は、項目No.を使って指定します。
例: (%1 + %2) * 1.05

計算結果の書式
型: N:数値 書式: N9C

⑤ 計算式で使用する項目を選択します。
※「追加(F4)」ボタンを押すと項目の一覧選択画面が表示されます。
※計算式に直接項目名を指定する場合は、ここで選択する必要はありません。

⑥ 計算式を指定します。
※「%1」は上の表の項目No.1の項目、「%2」は項目No.2の項目を意味しています。計算式の書式は、該当DBMSのSQLの演算子の指定方法に準拠します。

⑦ 結果の型と書式を指定します。

【計算式の使用例】

- 項目1の消費税額を求める

$$\%1 * 5 / 100$$

- 項目1と項目2の差を求める

$$\%1 - \%2$$

- 日時型項目間で経過時間(分)を求める

※日時型項目間で減算を行った場合、結果は日単位になりますので、分を求めるために 60x24=1440 を掛けます。

$$(\%1 - \%2) * 1440$$

(関数を利用する)

- 項目1が'M'の場合は'男'、それ以外は'女'と出力する

$$\text{DECODE}(\%1, 'M', '男', '女')$$

- 項目1が'M'の場合は'男'、'F'の場合は'女'、それ以外は'不明'と出力する

$$\text{DECODE}(\%1, 'M', '男', 'F', '女', '不明')$$

- 項目1と項目2を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する

DECODE(%1,%2,0,1)

- ・項目 1 と項目 2 の先頭 3 桁を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する

DECODE(%1,SUBSTR(%2,1,3),0,1)

- ・項目 1 がブランクの場合は項目 2、項目 1 がブランクでない場合は項目 1 と項目 3 を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する

DECODE(DECODE(%1,'',%2,%1),%3,0,1)

- ・項目 1 が NULL の場合は項目 2、項目 1 が NULL でない場合は項目 1 と項目 3 を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する

DECODE(DECODE(NVL(%1,1),1,%2,%1),%3,0,1)

* %1 が文字型の項目の場合

DECODE(DECODE(NVL(%1,'NULL'),'NULL',%2,%1),%3,0,1)

この他にも、TO_VAL、TO_CHAR、MONTHS_BETWEENなど、色々な関数を使用できますので、用途に応じて試してください。

(その他)

- ・集計処理でレコードの件数をカウントする

計算式に 1(数字)を指定し、集計方法を合計にする。

(計算式の条件指定)

※計算式に抽出条件を指定することも可能です。但し、この場合、計算結果は数値でなければなりません。

補足 1 テーブル定義の出力

<dbMAGIC V9 以前のバージョンの場合>

- ① 対象のアプリケーションを開発版で起動します。
- ② 「設定」メニューの「動作環境」を選択する。

「外部参照」タブを選択する。



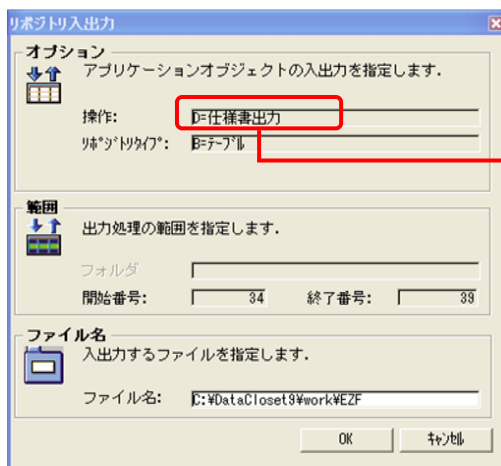
「%DataClosset%env%doc_dc.jp」を指定する。

- ③ 「設定」メニューの「プリンタ」を選択する。



1行目のプリンタの行数を 9999 に変更する。

- ④ リポジットリ入出力を実行する。



「D=仕様書出力」を選択する。

<uniPaaS の場合>

- ① 対象のアプリケーションを開発版で起動する。
- ② リポジトリ入出力を実行する。

リポジトリ入出力

アクション
アプリケーションのオブジェクトを入力するか出力するかを指定します。

処理: E=出力
タイプ: S=データベース
☐ モデルの出力

範囲
出力処理の範囲を指定します。

フォルダ:
開始: 72 終了: 77

ファイル名
入出力するファイルを指定します。

ファイル名: .ings%nagaishi%デスクトップ%DataSources

OK キャンセル

モデルは出力しない。